

令和5年度 学校評価

<p>本年度の重点目標</p>	<p>1 安全で安心な学校づくり (1) 健康、防災、食育、健康、人権への配慮 (2) 教職員の子どもと向き合う時間の確保及び業務の効率化 2 個に応じた指導の充実と協働的な学びの推進 (1) 時代の変化に応じた豊教育の専門性の向上 (2) 主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善 (3) 地域、学校間との連携強化 (4) 令和の日本型学校教育を意識した ICT の積極的な活用 3 学校からの発信力の強化 (1) センターの機能の充実 (2) ホームページ、インスタグラム等の活用による情報発信</p>		
<p>担当</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>幼稚部</p>	<p>・校舎との連携活動及び交流活動の充実を図る。また、発達に応じた生活習慣、生活言語の習得を促す。</p>	<p>・本校とひがしうら校舎との連携を密にし、ICTを活用するなどスムーズな連絡や相談を行うことで、教育活動に生かす。また、事前事後指導を丁寧に行うことで、本校・校舎の子どもたちがつながりを感じられるようにする。</p> <p>・季節や生活、行事など身近な題材を取り上げ、豊かな言語活動を図る場を積極的に設ける。課題の設定、問いかけや支援を工夫することで、体験と言葉をより深く結び付けられるようにしたり、子ども自らの反応を促したりする。</p>	<p>・電話やメール、県の校務支援システム、リモートアプリなどを駆使して業務の連携を密にし、教育活動に生かすことができた。幼児児童の交流は回数に限られていたが、事前事後指導を丁寧に行い、充実した活動となった。今年度の様子や保護者の意見を踏まえ、今後の交流のねらいを明確にし、在り方を探っていきたい。</p> <p>・今年度は特に「子どもからの発信を促す」、「子どもが主体的に動き、考える」ということを意識して言葉掛けや支援、題材設定を工夫した。体験を言語化し、伝える伝わる楽しさを味わうことで、子どもたちの積極的な発言や会話が多く見られ、豊かな言語活動ができた。</p>
<p>小学部</p>	<p>・個のニーズに応じた教育活動とキャリア教育の充実を図る。</p>	<p>・年2回の学年学級懇談、年3回の個別懇談等によって、保護者との連絡、連携の機会を大切にし、児童の実態とニーズを把握する。</p> <p>・個に応じた指導や協働的な学びの充実を図るため、部会等における教員間の情報交換や4名の教員の公開授業に基づいた授業研修等を実施する。</p> <p>・名古屋豊学校との連携により、3から5学年児童に対する出前体験交流会（各1回）や進路等に関する保護者教室の実施により、児</p>	<p>・学年学級懇談では、部の合同懇談会も取り入れ、全体に関わる情報共有を実施した。個別懇談会は懇談週間を設定し、実施をした。今後とも児童や保護者の声に耳を傾け、学びの場を充実させていく。</p> <p>・部会では児童の情報交換を実施し、部内の職員全員で児童を見守る体制をつくってきた。今後も、個の実態に応じた指導や小学校に準じた学習のための授業作りに対し、教員の積極的な研修を進めていく。</p>

		<p>童や保護者が将来の道筋を描く機会を積極的に設定する。</p>	<p>・名古屋聾学校高等部専攻科と中高学年、ひまわり学級との出前体験交流会、名古屋聾学校進路指導主事による保護者教室を実施した。引き続き名古屋聾学校と密に連携し、縦断的なキャリア教育を推進する。</p>
ひがしうら校舎	<p>・インクルーシブ教育を進めるにあたり、地域や学校等と連携し、交流及び共同学習を行う。</p>	<p>・(幼稚部)近隣の保育園と年7回の交流を行う。 ・(小学部)本校や近隣の小学校、高等学校(部活動を含む)、他の特別支援学校と交流する機会を設定し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を行う。</p>	<p>・丁寧に情報交換を行うことで園の職員への聴覚障害の理解が広がり、交流の土台を築くことができた。 ・近隣の小学校、高校との交流及び共同学習を数多く設定することができた。今後は対話的な場を設定することが課題である。</p>
教務部	<p>・学習環境を整えることで、授業準備の効率化を図ったり、幼児児童の学習の定着を図ったりする。</p>	<p>・各部の教材室を整理整頓して教材を探しやすくすることで、スムーズに授業準備ができるようにする。 ・教室や廊下の掲示物を工夫することで、学習した内容がいつでも目に触れられ復習できるようにする。</p>	<p>・定期的に教材室の片付けをし、種別に教材をまとめて整理することで、教材を探しやすい環境にした。 ・教室や廊下の掲示物を通して活動・学習した内容が一目で分かるように工夫した。今後は学級便りや SNS によって掲示物の様子等を発信していきたい。</p>
総務部	<p>・令和の日本型教育を意識した ICT の積極的な活用とホームページ、Instagram等の活用による情報発信を図る。</p>	<p>・小学部児童のタブレット活用を促し、指導者の技術を高めるための研修を実施する。(本校：年7回 ひがしうら：年3回) ・ホームページやInstagramで学校、幼児児童の様子を適切に発信する。</p>	<p>・外部講師によるリモート研修と自主研修を実施し、のべ人数で50名以上の参加があった。 ・Instagramについては保護者からも子供の様子が分かりやすくなったと好評を得ている。さらにICT支援員を活用しながら本校の教育活動がより伝わりやすくなるようホームページを刷新している。</p>
研究研修部	<p>・聴覚障害に関する専門的な知識を高め、実践する。</p>	<p>・自立活動分野に視点を置き、研修と実践を行う。 ・進路や就労、聴覚障害教育に関する情報等について、外部講師(企業・言語聴覚士)を招いて研修を行い、日々の授業実践に生かす。</p>	<p>・公開授業を行い、授業検討会を行うことで、授業における工夫等について学ぶことができた。 ・三つの研究班に分かれ、ひがしうら校舎とともに同じテーマで研究を進めた。授業実践を振り返り、課題等を共有することができた。</p>
生活指導部	<p>・自分や周りのことを考えて行動できる子どもを育てる。</p>	<p>・児童の身近な体験や出来事などを通して考え、判断し、適切な言動ができるための指導支援を行う。</p>	<p>・自分の気持ちを伝える活動として、ロボット人形と心のメッセージカードでのやりとりをする活動を行った。メッセージカードには、他を思いやる気持ち</p>

			の言葉や、自分の気持ちを自分なりの言葉で書かれていた。子どもたちが伝える楽しさを感じ、自他を大切にできるような支援を続けていきたい。
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に留意し、健康な生活を送る態度・能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けが・病気の予防、生命の安全教育に関する講話を行い（児童朝会3回、合同朝会2回）、掲示板や保健だよりで啓発を図る。職員にも情報発信を行う。 ・けがをしやすい場面では事前に注意を促す。日常的な手洗いやうがい、換気のほか、衣服の調整や水分補給など時期に合わせた指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における健康や安全について、児童朝会や合同朝会などの講話、保健だよりなどでトピックスを話題にしながら啓発を図ることができ、大きな学校事故や病気は見られなかった。 ・校内に危険箇所がある場合には、注意を促す掲示や職員への周知などを通してけがを未然に防ぐことを心掛けた。今後も安全な学校作りを意識していきたい。
いじめ防止に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に対する情報を共有し、学校全体で組織的に指導に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回実施する児童対象の「心のアンケート」により早期発見に心掛ける。 ・「学校いじめ不登校対策委員会」を設置し、情報共有を図りつつ学校全体で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心のアンケートの実施後、個別に担任との細かい面談を行い、早期解決を心掛けた。言葉の使い方や受け止め方を話し合いながらお互いの気持ちを考え行動するよう支援した。嫌な気持ちを感じたときは担任や養護教諭などに話すことで、大きな問題になることはなかった。
多忙化解消に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・本校と分校の連携方法を確立し、業務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に連携方法（資料の確認方法・リモート方法等）の共通理解を図って実践することにより、課題を明確にしながら修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等についてリモートを中心に行うなどして連携を図った。行事なども両校で係分担をして業務の適正化を図った。データの運用については引き続き整備をしていく。
学校関係者評価を実施する主な項目		<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止について ・子どもたちの教育及び職員の業務における本校、校舎との連携について ・時代の変化に応じた聾教育の専門性の向上について ・幼児児童の自立と社会参加に向けて、一人一人の障害の状態や発達段階に応じたキャリア教育について ・情報提供ツールを利用した学校からの発信力の強化について 	